



第35回〈東音〉ピアノゼミナール

ヨルダ・ノヴィック 東京公開レッスン誌上紹介

第1回バルトーク 「ピアノの一年生」の弾き方

—ピアノでうたうということ—

次回は初見の勉強法について

〈東音〉ピアノゼミナールもいつしか35回を重ね、今回はアメリカのバルトークピアニストとして国際的に活躍しておられるヨルダ・ノヴィック女史を迎えてこの会となりました。9月7日の大阪公演、14日の東京公演ともに、大好評を得たことは、当研究会史上一つの快挙といえと信じます。

それは、音楽のよろこびが肌を伝わってくる感じで、ピアノのレッスンの本質を知る思いがしました。通訳は大阪・西川恵美子先生、東京・岩崎 淑先生でした。両先生共に、ジュリアードでピアノを学ばれた方で、その御苦勞を誌上をお借りして感謝の意を表したいと思います。

公開レッスンの前に

今、福田先生からお話があり、私にはまったくわかりませんが、「有難うございます」と申し上げます。(会場笑い)

4年前に日本にまいり、私はバルトークのマイクロコスモスを弾きましたが、過日大阪で公開レッスンをおこなった際、お子さんが、マイクロコスモス他バルトークの曲を、すばらしく上手に弾いてくださったことは、私が以前日本で演奏したこと以上に、うれしいことでした。

これから公開レッスンを致すわけですが、その前にほんの少しばかりバルトークについてお話申し上げます。

1900年の終り頃、バルトークは小さな村に行って少女たちがうたっていたハンガリアのメロディを聞きました。しかしそれが今迄ハンガリアのメロディとして知られていたものとまったく違っていることに気がついたのです。リストが使っていたハンガリアの旋律というのはジプシーの旋律で、バルトークは、この本当のハンガリアの旋律によって、曲を作ろうと決心したわけです。でこのハンガリア民謡を蒐集するために、東ヨーロッパ、ルーマニア、アフリカ、あらゆるヨーロッパ諸国を、自分自ら走り、2万7千の旋律を集めました。

その中から最も簡単な旋律を集め79曲の子供のためのピアノ曲を作曲しました。今日はその中より、皆さんと御一緒に勉強して行きたいと思います。

ピアノの一年生 First Term at the Piano

5番, 6番

5才のお子さんが弾いてくださるそうですが、この曲集は、子供のためのピアノ曲集の中でも、最も初歩の曲集で、初心者向けのものです。そして

バルトークが教えていた、リストコンセルバトワールで、レシャフスキー教授が、ピアノ技術を高めるために

エチュードとして曲の間に使わせたものです。そして、18のやさしい曲集としました。

私が小さい子供を教える時に、一番最初にマイクロコスモスとこの曲集を使っております。バルトークの曲集では一番やさしいものです。

Moderato. (J. 52)

スラー・スタカートは正しく (しかし) 何よりも、子供の自然な発想(感情)が大切。

Moderato. (J. 52) 強弱記号がほとんどつかっていないが

子供にうたわせて 充分な発想をつけさせる。

(受講者演奏) よくできました。

バルトークの作品について、少々お話ししましょう。というの、バルトークの極く親しい友人、それからバルトークの手紙を通じて、私はバルトークのことをよく知っているからです。

この曲集には、あまり強弱記号がついておりません。それには理由があります。バルトークが子供に対してどういう考え方をしていたかよい例なんですけれども、どんな小さな子供でも、感情を持っている。で、その子供の自然の感情の発露、そしてその子供の教師の感情との場合によって自然の発想が生れるから、わざわざ、強弱記号をつけなくてもよいという考えからなのです。

バルトークの友人のゾルタン・コダーイも、そのような考え方を一層深めたもので、どんな子供、どんな小さな子供でも「うたごころ」を持っているという考えから音楽教育が初まっています。一般にこれを、コダーイシステムと呼んでいるわけです。この考えは、バルトークから初まっています。

(レッスン)

では、右手だけ弾いて下さい。私がうたってあげますから、あなたも声を出してうたいながら弾いてごらん下さい。参加者の皆さんもうたって下さい。

小さな扉をそっとはいて、大きな姿勢になって、そう自然に、よくようがつくでしょう。

(受講者弾く)

そうあなたは、そううたいながら弾くことになれていませんからよく弾けませんが、今度私が日本に来た時、また聞かせてください。

FOLKSONG

VOLKSLIED

10

Allegro. (♩. 72)

f

sempre f

ピアノの一年生 10番, 15番

(10番受講者演奏)

大変よくひけました。この方は、さっき私が中した、うたうということをよく理解し、7才としては何も申し上げる余地がないほど、立派な演奏でした。

左手は伴奏、右手が旋律。これは当然のことながら、旋律をよくうたい、心から生れる発想を忠実に表現せねばなりません、本当によくできました。

WEDDING-DANCE

HOCHZEITSTANZ

15.

Moderato. (♩. 98)

pesante

allargando

(15番受講者演奏)

このウェディング・ダンスというのは、もう少し本格的なダンスの感じを出した方がよいと思います。

(手拍子をうつ)

それは、非常に重いブーツをはいて、女の子が踊る曲なので、もう少し重々しく弾きましょう。

では、もう一回左手だけ弾いてください。

ものすごく太った男の人が、踊っている感じをもつて。

この曲は、典型的なハンガリア民謡の性格を持っています。リズムが、2小節或いは3小節反復しますが、それをただ単なるリズムの反復とだけしないで、オーケストラの中の、バズーン、チューバなどが、交互にでてくるということを想像して弾きましょう。ですから、同じリズムでも、性格が違っているものだということがわかるとと思います。

あなたは、7才ですが、オーケストラを想像しながらオーボエや、バズーン、チューバになって弾いて下さい。もし楽器の名前を知らなければ、お母さんは教えてあげてください。

もし私が言ったようなことが7才位の方にはむずかしければ、あらたな旋律(反復による)がでて来たら、前と違った感じで弾くということを強調して先生方は指導してあげてください。

そうすれば、曲がもっと生々とし、興味深くなってまいります。

私の友だちのピアニストたちもいっていることですが管楽器を演奏する人々は、息つぎをしますから、自然、フレージングの感覚がはっきりとしてきます。しかし、ピアニストはとかく、息つぎを要しませんので、フレージングの把握があいまいになってしまう欠点があります。そこで、私がいつもやっていることですが、私はドラ声ですが、声を出してうたってやって、フレーズの息つぎを教えてやっています。

(このヨルダ・ノヴィック先生の公開レッスン模様は、連載する予定です。次回は、初見の勉強法、バルトークの子供の為にIなどの弾き方を紹介する予定です)

(文責・福田)